

【産山村】

校務D X計画

1. 趣旨

産山村では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から ICT 環境の整備を進めてきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、本村では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取り組みを進めることとします。

2. 産山村における課題等について

「GIGA スクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGA スクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）を踏まえ、産山村における次の課題を明確にしました。これらの課題解決に向けて、学園と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要があります。

（1）GIGA環境・汎用クラウドツールの一層の活用

校務DX化チェックリストの結果によれば、「教職員が作成した教材等をクラウド上で共有する」といった取り組みや「クラウドサービスを活用したテストに係る CBT（※1）の導入」など、十分に進んでいない状況です。このような中で、汎用クラウドツールの導入等について検討を進めており、更なる利便性の向上に努めています。

（2）今後の校務支援システムの在り方検討

現行システムはネットワークが分離されたオンプレミス型で運用されており、学習系データと校務系データの連携ができない課題があります。この課題を解決するため、今後は各自治体の事例を参考にしつつ、校務系と学習系ネットワークを統合したクラウド環境での校務運用を目指し、教職員が働きやすく、児童生徒が学びやすい環境の整備を検討していく必要があります。

（3）教育情報セキュリティポリシーの必要性

平成16年にセキュリティに関する指針を策定して以来、教育現場の現状に即した教育情報セキュリティポリシーの改訂が行われていない状況にあります。

今後は、国の方向性や現状を的確に把握し、クラウド上のデータやサービスの活用を前提とした新たな教育情報セキュリティポリシーの策定が求められます。また、学校では児童生徒に関する多様な情報が日常的に活用されていることを踏まえ、児童生徒の存在や情報の多様性・多目的性を十分考慮した情報セキュリティ対策を講じることが重要であるため、まずは教育現場の実情に合った現実的で実効性のある教育情報セキ

セキュリティポリシーの整備を進める必要があります。

3. 校務DXに向けた取組

上記の課題を踏まえ、校務DXに向けた取り組みを以下のとおり進めます。

(1) 業務を支援するツールを活用した効率化の推進

教職員の業務負担を早急に軽減するため、まずは既存の業務支援システムの活用方法を研究・実践します。また、コミュニケーションツール等を活用し、児童生徒とのリアルタイムでの連絡や学習状況の把握・評価の充実に図るとともに、教職員間の情報共有を促進し、校務の効率化をさらに推進していきます。

(2) 次世代型校務システム導入等の検討

次世代型校務システムの導入について検討します。また、校務系ネットワークの学習系ネットワークへの統合を想定し、データ連携やセキュリティ対策について調査研究を進めます。さらに、既存のサーバや校務端末の更新時期を考慮し、ネットワーク統合後の組織体制も視野に入れた取り組みを進めていきます。

(3) 教育情報セキュリティポリシーの策定

クラウド活用を前提に、それに適したセキュリティレベルを確保しながら、データ利活用や個別最適な学びなど、新たな時代にふさわしい教育DXの基盤を構築するため、教育現場の現状を踏まえ、「教育情報セキュリティポリシー」を策定します。

(4) FAXの利用・押印の見直し

クラウドツールを導入してFAXのやり取りや押印作業の見直しを行い、ペーパーレス化を目指します。

(5) 不必要な手入力作業の一掃

村教委から学園へデータで名簿情報を提供することにより、校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃を目指します。

(6) クラウドツールの利活用

クラウドサービスで職員会議資料を共有し、ペーパーレス化と事前情報共有による会議の質向上を図ります。

※1 「CBT」とは、「Computer Based Testing (コンピューターベースド テスティング)」の略称で、コンピューターを使用した試験方式のこと。コンピューターのディスプレイに問題が表示され、マウスやキーボード等を使って選択肢を選んだり、答えを入力し解答を行う。